

# アジアの友

The Asia-no Tomo

8-9

AUGUST-SEPTEMBER

2014

## 外国人留学生の日本での就職活動について 留学生の就職活動の進め方とポイント





◀ 優勝したファイさん

## 卓球大会&カラオケ大会を開催

アジア文化会館では去る7月11日(金)、卓球大会とカラオケ大会を開催しました。卓球大会は21名の参加者が白熱のトーナメント戦を行い、グエン ワン ファイさん(ベトナム)が優勝しました。また、カラオケ大会には小木管理事長を含む7名が参戦。それぞれ個性的で素晴らしい歌唱力を披露してくれました。こちらはタン ジェイソンさん(マレーシア)が優勝し、アンコールに応えました。



◀ 優勝したジェイソンさん

## トルコ式イフタール(食事会)開催

7月25日(金)、ABK 地下ホールにてトルコ式イフタールがトルコ人留学生らの主宰で行われました。イフタールとは、ラマダン(断食)明け初めての食事のこと。7月は断食月であり、この日のイフタールにはABKの留学生60名以上が招待され、用意されたトルコ料理を楽しみました。



# アジアの友

2014年8-9月号 第510号

## 目次

### 巻頭

- 2 外国人留学生の日本での就職活動について  
留学生の就職活動の進め方とポイント 加賀武志

### 就活応援インタビュー

- 11 工藤尚美さん  
19 エンピ カンデルさん  
26 ホ クアン ワイさん

### コラム

- 28 泰日工業大学 奮闘記 (第7回)  
「プレゼンテーションの指導」 當山 純

### Event & Festival

- 29 アジアフォーカス福岡国際映画祭 2014 他

### 知友会通信

- 31 奨学金・イベント情報

### MEMBERS

- 32 ご入会、ご寄付のご報告 (2014年6月、7月)

## ABK 秋祭り

留学生による  
各国屋台とパフォーマンス!

10月25日(土)

12時より

アジア文化会館にて

<表紙> ABK で開催されたトルコ式イフタルの参加者

留学生のための  
就活  
セミナー

昨年7月に設立した(学)ABK学館日本語学校は、今年4月に第1期生の受け入れが始まりました。2部制をとり、大学進学指導中心のABK日本語コースとは異なり、学生もバラエティーに富んでいます。そこで、学生の満足度をみたく有用なクラスも各種設定されています。最近、自国で既に大学を卒業した後日本に留学する人も多くみられ、日本語を学んだ後の進路も大学院へ進学する人、専門学校へ進学する人、さらに特記されるのは日本での就職希望者が増加していることです。そこで、日本の就職事情を熟知しない就職を希望する日本語生に向け、この7月に留学生の就職を支援している専門家、留学生OBを招き日本語で、「日本での就職活動について」というテーマで4回に亘る就活セミナーを開催しました。このセミナーのコーディネートを担当された加賀氏のガイダンスと、セミナーでお話をされたお二人の専門家のインタビューを掲載いたします。

## 外国人留学生の日本での就職活動について 留学生の就職活動の進め方とポイント

加賀武志

ABK学館日本語学校 特任講師

山形大学工学部 客員教授

中小企業庁 平成26年度 地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業プロジェクトリーダー

### 1. 「なぜ」を考えよう

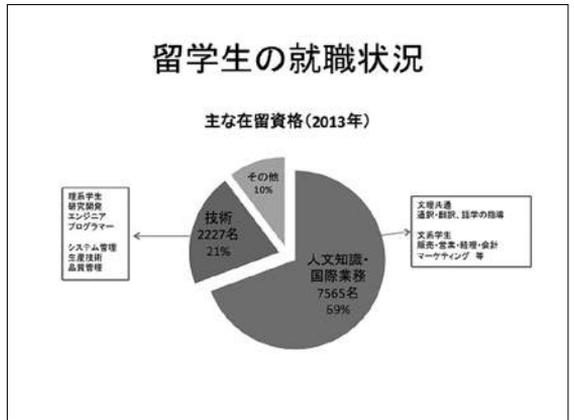
これから留学生の皆さんに日本の会社や就職に関しての話をしたと思います。単にひとつひとつの話を知識として聞くだけではなく、「どうしてそういうことが起るのか?」「どうしてそうなっているのか?」をぜひ考えて欲しいと思います。理由がわかれば、いろいろと応用が利きます。

### 2. 留学生の就職は約1万1千人 仕事で異なる在留資格

それでは、留学生の就職の現状についてみてみましょう。

2013年に大学などを出て日本で働いている留学生は、約1万1千人ぐらいいます。留学生が日本で就職するには、そのための在留資格が必要となります。ですからその資格にあった仕事をするようになります。大きく分けて、大学で経済学や日本語学などを学んだ文科系の学生は、人文知識・国際業務という資格で、通訳・翻訳、語学指導、販売・営業・経理・会計、マーケティング等の仕事についています。約7割がこの資格で就職しています。また、工学部など理料系の学生は、技術という資格で主に

研究開発、エンジニア、プログラマー、システム管理、生産技術、品質管理等の仕事についています。留学生の就職者の約2割がこの資格で働いています。在留資格について、もう少し詳しく説明します。今、留学生の皆さんは、「留学」という在留資格で日本に滞在し勉強していますが、日本で就職するときには、その仕事の内容に合った新しい在留資格に変更することになります。なぜ、そのような手続きが必要かという、それは、日本は外国人が自由に移り住んで仕事をするのが、原則として許されていない国だからです。例外として、大学等で高度な専門知識や技術を習得した人が、それを活かす仕事に就くことは許可されています。その背景には、外国人と日本人が専門性を必要としない仕事を、奪いあうことは避けたいという考えがあります。



### 3. 日本の会社は一緒に働く「仲間」を求めている

では、日本の会社はどんな外国人留学生を必要としているのでしょうか？

外国人を採用した理由を日本の会社へのアンケート調査などで見てみると、国籍を問わず「日本と外国との橋渡しとなる人材」と「優秀な人材」への期待が高い様です。

次に、どんな留学生が欲しいかとの質問には、まず「日本語力」との回答が1番でした。次は「コミュニケーション能力」を求めています。基礎学力や知識よりも、人との繋がりを重視しています。これは、なぜでしょうか？ 日本の会社は、できれば長く働いて貰い

### 留学生の就職数

国籍	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
中国	7539	7651	6333	4874	5344	7032
韓国	1109	1360	1368	1205	1209	1417
台湾	282	303	285	279	302	352
ベトナム	131	189	161	167	242	302
ネパール	63	161	173	141	149	204
タイ	87	97	101	109	109	170
バングラディッシュ	138	164	125	107	139	162
スリランカ	81	160	141	120	114	91
その他	832	955	897	829	978	1219
合計	10262	11040	9584	7831	8586	10949

(人)

たいので、まず「仲間」として一緒に働けるかを見たいのです。

次に、留学生が、どうして日本で働きたいと考えたのかについての調査結果がありますので見てみると、「せっかく日本へ来たのだから、日本企業で自分の力を試したい。」また「自分の実力をアップしたい。」と考えている先輩が多い様です。また、「日本での生活環境に満足して、そこで生活を続けたい。」と考えている人も多い様です。

4. 日本の就職活動は長期にわたる。  
但し、既に海外で大学等を卒業してる  
留学生は例外

それでは、日本での就職活動のスケジュールについて説明しましょう。皆さんの国では、就職活動は1ヵ月ぐらいとか、大学を卒業してから始めるとかという話をよく聞きます。日本の状況は違います。先輩の話や、大学等ですすでにご存じと思いますが、日本では新卒生の就職活動は卒業の1年以上前から開始するのが一般的です。なぜ、これだけ長い期間の就職活動が必要なのか？私は、「会社は仲間として長く働ける若者を採用したい」と考えているからだと思います。ですから、何度も試験や面接を繰り返し、会社と学生との相性を見極めるためなのだと思います。なお、日本の経営者団体

留学生のための就活セミナー

**・留学生を採用した理由**

1. 海外に取引先があり、日本と海外との間の業務を行うため
2. 海外法人があり、将来その法人の幹部として必要なため
3. 海外進出(工場や支店)の計画があり、現地での交渉が必要のため
4. 国籍に関係なく優秀な人材を確保するため

**・採用で求める能力**

1. 日本語力
2. コミュニケーション力
3. 基礎学力(じあたま(地頭))
4. 専門知識
5. 適応能力

本社と現地の調整役として期待している

**2015年4月採用の新卒就職活動スケジュール**  
(一般の大学生の目安です)

① ナビ登録資料請求  
② 企業説明会参加  
③ 書類提出(ES・履歴書)  
④ 筆記試験を受ける  
⑤ 面接を受ける  
⑥ 内々定  
⑦ 内定  
⑧ 入社

※ 既に大学を卒業している人はいつでも就職活動を開始できます。

**元留学生に聞いた 日本で働きたい理由**

- 1位 日本で自分の実力を試したいから
- 2位 日本語を使って仕事をしたいから
- 3位 将来日本企業の海外拠点で働きたいから
- 4位 日本の技術力が高いから
- 5位 日本企業の給与が高いから
- 6位 衣食住の環境が良いから
- 7位 日本で働いた経験を母国に持ち帰りたい

2012マイナビ調査より

**日本の就職活動の特長**

就職活動期間が長い  
1年以上かかることも

準備するものが多い  
リクルートスーツ・靴・かばん

試験や面接の種類が多い  
SPI・一般常識・個人面接・集団面接

ITを活用する

は、各企業の就職獲得競争が激しくならないように、共通の採用活動のスケジュールを決めています。また、日本の大学・大学院、高専・専門学校等の新卒者の就職活動と、既に海外の大学を卒業して来日している留学生の場合とは、スケジュールは異なります。すでに海外で大学等を卒業して来日している留学生はいつでも就職活動を始め、採用が決まればすぐにでも就職できます。ただ、日本企業は日本語能力を重視しているので、あまり焦らず日本語力がアップしてから、就職活動をした方が成功率は高くなると思います。

ここまで話したことも含め日本の就職活動の特長をまとめてみましょう。

1つ目は、就職期間が長いこと。2つ目は試験や面接の種類が多いこと。3つ目は試験や面接などの種類が多いので、インターネットを使った会社情報の収集・調査や、その他イベントの申し込み、連絡用のメールの活用など、ITの活用などが必要なこと。4つ目は準備することが多いこと。就職活動用のスーツやカバンなどの用意です。

## 5. 就職活動は自分を知ることから

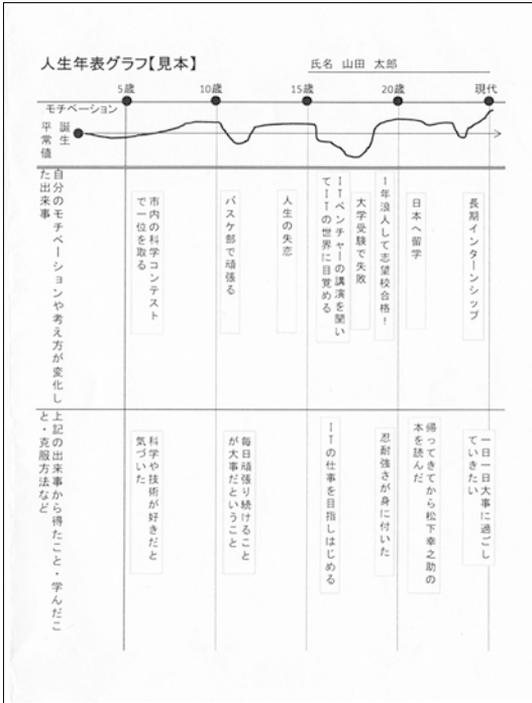
それでは、留学生の皆さんが、日本での就職活動を始める前にやるべきことの大変な4つのことを説明します。

1つ目は、他人に自分を知ってもらうために、自分自身のことを自分で考える「自己分析」です。これは、会社に提出す

る書類にも書くことがあります。2つ目は、これまでの人生の中で強く記憶に残る体験とその時自分は何をしたか、どのように対応したかをまとめておくことです。これは会社がその人の仕事の進め方や将来の進路の決め方などを判断できる資料になると言われています。3つ目は自分の興味のある会社や仕事のことを就職活動前によく調べておくことです。「業界調査」、「企業調査」と言ったことです。そして4つ番目は一番大切なことですが、5年、10年先、場合によってはもっと先の自分の将来の姿を考えてみることです。会社で働くことは、将来になりたい自分に近づくための1つのプロセスです。みなさんは、会社で働くことが最終目的ではないと思います。ですから自分の将来の姿をこの機会に収入、夢の実現、社会貢献の3点からぜひ考え就職活動に生かしてください。

### \*自己分析に役立つ「人生年表グラフ」

ここで、自分を理解するのに役立つ「人生年表グラフ」がありますので活用してください。これは、これまでの自分の人生を振り返り、印象的な出来事を書き入れます。そして、その時の自分の気持ちを思い出して書き入れましょう。このグラフを完成させると、自分自身気づかなかったことが見えて来るかもしれません。これまでの人生を振り返り将来の可能性や何がやりたいのかを考える材料にもなります。



- ②大企業で働きたいのか？
- ③自分の希望する業種や職種にどこまでこだわるのか？
- ④日本国内で勤務したいのか？ 首都圏で働きたいのか？
- ⑥企業を選ぶときの優先順位は何か？； お金？ブランド？仲間？…

6. 業界研究と企業研究を同時に進める

入社試験を受けるには、その会社のことを知らなければその会社に入りたい理由を説明することが出来ませんので、会社を調べる方法について説明します。

まず、どんな種類の仕事があるのか調べるのが「業界研究」です。金融、自動車、情報通信、…など日本にはいくつもの大きな業界があります。また、その中でどんな仕事があるかという「業種調べ」があります。自分だけではなく、先生やキャリアカウンセラーのアドバイスを受けながら調べるのが大切です。また、興味ある業界、

留学生のための就活セミナー

＊まず自分の将来について考えよう

自分の将来を決める就職活動を始めるにあたり、「なんとなく就職したいとか」、「日本にいたので日本で働いてみたい。」というのだけでは、厳しい競争を勝ち抜いて希望の会社に入ることは難しいと思います。就職活動をするにあたり、自分自身の状況をよく考えることが大切です。自分は何を優先順位に考えるのかが、仕事や会社を選ぶ時の一番大切なことだと思います。また留学生は、在留資格の期間の制限があるので、その期間内で進路を決めなければなりません。そこで、以下の項目をぜひ考えてみましょう。

- ①どこで働きたいのか？ (where?/ which country?.)



業種が見えてきたら、それらの「会社調べ」をしてみましょう。特に自分の将来のプランと関連のある会社を見つけ出すことが大切です。業界・業種・会社調べには、日本人の学生向けの資料や本が数多くあります。それらも活用して、十分に研究しましょう。

7. 就職が決まりやすい留学生とは

次に、会社や大学から見て、就職が決まりやすい学生の特長を見てみます。

当たり前のことですが、大学の勉強をしっかりしている人や、早くから就職の準備を始めている人は就職が決まるのも早いようです。それは、毎日を目的意識を持って努力しているからだと思います。会社の先輩たちは、そういう後輩たちと「仲間」として一緒に働きたいと考えていると思います。

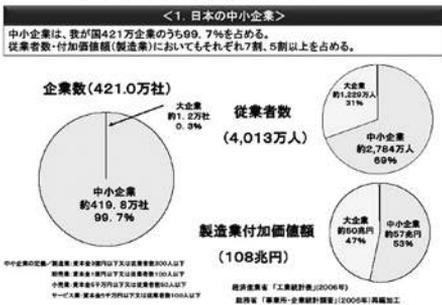
8. 日本人も留学生も  
大企業への就職割合は3割

採用される留学生の特長(例)

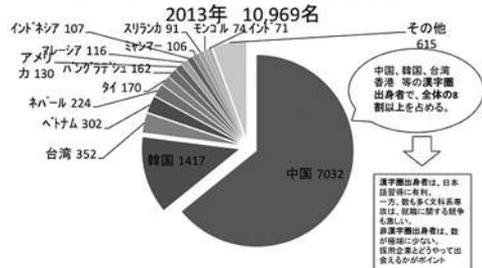
1. 日本語の勉強に力を入れている。日本語能力検定試験(JLPT)、ビジネス日本語能力テスト(BJT)
2. 日本企業で仕事やアルバイトをしたことがある。
3. 勉強以外にボランティア、クラブ活動、サークル活動の経験がある
4. 英語の勉強をしている。ビジネス英語力(TOEIC)がある。
5. 日本の新聞を読んでいる。
6. 授業を遅刻せず、単位をしっかりと取っている。
7. 卒業論文をしっかりと書いている。また、内容を簡単に説明できる。
8. 就職サポート(キャリアカウンセラー)を利用している。
9. SPIなど日本の就職試験の準備をしている。
10. 将来自分がどんな働き方をしたいか考え他人へ説明できる。

次に、日本の会社について見てみます。日本に会社はどれくらいあると思いますか? 推定では約400万社あると言われています。その中で300人以上働いている会社や、資本金が5000万円以上の大企業は約1万2千社で0.3%程度です。そこに日本人の労働者の約3割が働いています。中小企業では約7割が働いています。留学生はどうでしょうか? 留学生が日本で就職する人は毎年1万人ぐらいです。そのうちの3割位が大企業に、7割位が中小企業に就職しています。つまり、日本人も留学生も同じ傾向だということです。

日本の企業について



留学生の国籍別就職者数



9. 非漢字圏出身者は希少価値がある

次に、留学生の就職状況を見てみましょう。最初に国籍別の就職者数の数と割合です。中国が約6.5割、韓国が約1.3割など、母語が漢字を持つ・持っていた「漢字圏」の学生が約8割を占めています。留学生の数も漢字文化圏からが8割弱ですから漢字圏の留学生の就職は、厳しい競争もありますが、数多くの先輩方が仕事を得ていると言えます。一方漢字圏でない（非漢字圏とも言います）国・地域からの留学生は、数十人から数百人しか就職していません。会社側から見ると非漢字圏の学生に出会うのはとても難しいと言われています。ですから非漢字圏の留学生は、自分からもアピールして多くの企業に知ってもらう必要があります。

10. 文科系の仕事が多く、近年販売・営業への就職が急増

留学生の就職先の仕事の種類は、文科系の仕事が多く、通訳・翻訳が1位です。一方、企業は理科系の留学生をたくさん採用したいと考えています。それは、優秀なエンジニアや研究者が企業の国際的な活動には必要だと考えているからです。また、営業・販売の仕事に就いている留学生は5年前の3倍になって1位に近づいています。これは、外国からの観光客

などが急増し、その対応をする外国人が必要になっているのも一因だと考えられます。今後東京オリンピックに向けてこの分野はますますニーズが高まると思われます。

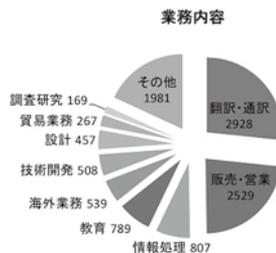
11. 会社探しにナビシステムは有効だが、自分の足で会社を探すのはより大切

では、自分に合う会社をどのように見つけるかという話をします。

会社を探すのに、学校の就職課やインターネットでのナビシステムを使うことが多いと思います。ナビシステムでは一度に多くの会社を探すことが出来ます。しかし、ナビシステムだけでは、実際には就職には至りません。なぜかというと、ナビに載っている情報は、すべての人に向けた情報で、あなただけに向けた情報ではないからです。だから自分が本当に就職したいと考えている会社は、自分で直接会社の担当者に会って話を聞き、ナビに書かれていない情報も

留学生のための就活セミナー

留学生の就職状況



### 仕事の見つけ方 (必ず自分で確認する事)

- ○○ナビ (必要だがそれだけでは不十分)
- 学校の就職課 (学校によってサポート内容が異なる)
- 外国人雇用サービスセンター (中小企業の情報が充実)
- 民間の人材紹介業 (会社によってサービス内容が異なる)
- 個人的な紹介 (最も安心だが、情報が少ない)
- 合同企業説明会 (いきなり参加は危険)

した後も世話をしてくれるかどうかです。就職した後までフォローしてくれる人材紹介会社は、責任を持って会社と留学生を結びつけてくれる会社です。

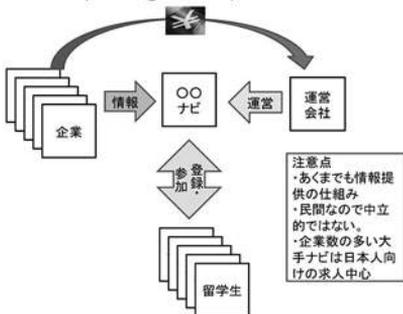
### 12. 目標企業や業種の候補が決まったら 自分の適性を調べる

適性を調べるには、その企業の創業の精神や、仕事の内容等を基に、自分との相性を調べます。その時重要なのは、内部の先輩方や取引先等からの公表されていない情報やアドバイスです。特に留学生は日本の社会の仕組みが分かりにくいと思いますので、その会社の留学生OB社員の話や、留学生の就職事情に詳しいキャリアカウンセラーを探して、自分の適正に合っているかについて相談することが極めて重要です。

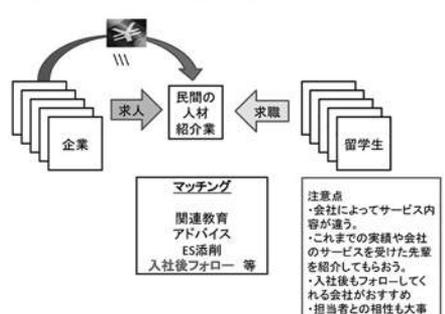
集め、その会社が自分に合った会社かどうかを確認すべきです。その時に、先生や留学生の先輩や友人、知人の紹介などのネットワークが役に立ちます。また、留学生で、既に海外の大学を卒業している人は、民間の人材紹介会社の活用も効果的です。民間の人材紹介会社は、会社から頼まれてその会社の希望に合った人を探しています。従って、あなたが会社から求められている人材かどうかは紹介会社が選んでくれますので、手間がかかりません。なお、よい人材紹介会社かどうかを見極めるポイントは、就職

### 13. エントリーシートと試験

#### ナビ(navigation)の仕組み



#### 民間の人材紹介業の仕組み



次に、具体的な就職活動に必要な試験や面接の話をします。

ただ、具体的なやり方については、学校の先生やキャリアカウンセラーの先生方に、実際に添削や練習をしてもらってください。ここでは流れを説明します。

まず、これはと思う企業が決まったら、企業説明会に参加しましょう。その時またはその後で、履歴書のような「エントリーシート」を提出します。エントリーシートは、会社側が会いたい人を選ぶための資料です。つまりあなたにとっては、エントリーシートは自分自身のことを会社にアピールする場です。同時に、その会社の事を自分がどのように理解しているのかを示す必要があります。このエントリーシートの他に、履歴書の提出を求められることもあります。これも用紙が決められている会社もありますので注意してください。なお、手書きの場合は、うまいへたというよりも「ていねいに書く」ことが一番大切です。

次は、筆記試験です。コンピュータを使った試験をするところもあります。これは、本人の基礎能力や適性を調べ面接に進む学生を選ぶためのものです。会社によって日本人と全く同じ日本語での試験をすることもあれば、英語や中国語で試験をすることもあります。なお、この試験の結果だけで不合格にはしない会社もあり、様々です。また留学生は、日本語のハンディーがあるので、試験や面接ではその点を配慮してくれる会社も多い様です。

#### 14. 面接が入社を決定する

日本に企業は、一緒に働く「仲間」を採用したいということをこれまで説明してきました。どんなに能力が高くても、仲間になれないと判断したらその人は採用されません。面接では、本人の能力や、仕事への適性をみる他に「職場との相性」もみます。面接には、事前に必ず練習を行い十分準備をする必要があります。また、留学生が必ず聞かれる質問に、「いつ帰国する予定ですか?」「何年くらい日本で働けますか?」があります。日本企業は、できるだけ長く仲間として働いてもらえる学生が欲しいので、できるだけ長く日本にいる予定の留学生を採用したいと考えています。この質問に対して、あるキャリアカウンセラーは、会社によって事情が異なるので、逆に会社側の意向を確かめてからと答えるようにアドバスしています。

#### 15. 最後に なぜ働くのか?

就職活動は、皆さんの想像以上に大変なことです。ですから、なぜ働くのかを考えて、「〇〇のためには頑張ろう」と自分で自分を励ますことが必要です。そして、ここで述べたことを参考にしてよりよい就職を実現してください。ともに自己実現のためとアジアの成長 (Asian Dream) のために頑張しましょう。(終)

## 就活応援インタビュー①

株式会社オリジネーター 取締役 専務執行役員

### 工藤尚美さん

—— まず工藤さんがこのお仕事を始められたいきさつをお聞かせいただけますか。

大学を卒業後人材系の企業に就職をして、5年ほど営業をやった後に日本語教師になりました。私がすごく興味があったのは、教育といいますか“知る”ということが生きる糧になり、生きる術を身に付けることになるということでした。

企業での勤務時代、アルバイトをしている日本語学校生と知り合う機会があり、彼等が日本語をどのようにして次のステップに生かすのかということ、日本語が生きるためのツールになるということその時に非常に感じたんですね。そして、彼等が日本語を生かして世界を広げるといふことのお手伝いをしたいなと思うようになったんです。その後会社を辞めて日本語教師養成講座に通い、日本語学校の教師になり13年ほど仕事をしました。

その間、学校がソウルにつくった直営校の責任者として2年ほど現地に赴任し、その直営校からさらに出向して今や世界的企業となった韓国の財閥系企業の研修所で1年間教えていたのですが、まさにそこは語学を武器にするということを経営につ



なげている会社でした。そして私自身、そこで大きな気付きという学びがあったわけです。その会社の社員はその研修所で日本語や英語をはじめ、中国語、ロシア語などの当時の特殊言語も勉強していて、その中から更に選ばれて1年間現地に専門家で行ったり、ビジネススクールに入ったりしていました。言語を学ばせた後にその土地に行って肌で学ばせるという、もう20年

くらい前ですけど、そういうことを実践していたんです。もともと私がいた日本語学校は留学生よりビジネスマンの方が多い学校だったので、そういった教育にますます関心を持ったわけですね。

一方で、帰国後留学生の募集事業を広げるといふ話になり、当時私は全体を見るようになっていたので、いわゆる海外からの留学生募集の仕事を担当したわけです。

対象は東アジアとか東南アジアの学生達で、日本語学校がまず日本の入口になってそこから大学や専門学校へ進学するのですが、進学後や卒業後に学校に遊びに来る彼等から、日本で就職したいのに、なかなかできないという声を多く聞いたんですね。レベルの高い日本語を話し、人物的にも優秀なのに、日本で受入れる企業が少ない為に、諦めざるを得ないという声が多かったんです。

そこで、そういう学生のために、私たちも就職の支援をしてくれる会社がないかとよく調べたんですが見つからない。それなら自分でやろうかなと思い、昔の会社時代の先輩・・・今の会社の社長に相談したら、うちでやってみないかということになり、始めたのが2005年でした。

ただ当時は留学生を企業に紹介して成り立つような時代ではなかったため、IT外国人技術者の中途人材の紹介を柱に事業をスタートさせました。

—— ほかの外国人材とは違う留学生の素晴らしさを企業に理解してもらいお互い

のメリットにしてもらいたいということですね。

そうですね。日本に留学してもらい日本のことをある程度理解する、肌でいろんなことを感じてもらう。例えばアルバイト先で店長さんに怒られたりとか、アパートで隣人にゴミの出し方を注意されたりとかしながら、日本人が気にすること、自分の国とは違う日本のマナーなどを肌で感じて理解した学生が、日本の企業に根付きやすいという思いが私にはありますから、留学生の就職支援をやりたいとずっと思っていたわけです。

そのようなときに、東京都専修学校各種学校（東専各）さんからのお声がけもあり、業務提携のもと、留学生の就職支援を始め、「アジア人材就職・転職説明会」という就職イベントの1回目を2007年の1月に行いました。

—— その後企業の外国人採用に対する姿勢は変わってきていますか。

本当に時代は変わったなと思います。以前は「日本人が採用できないので」と外国人を“代わりに”採用していた企業さんが主でしたが、今はあえて外国人を採りに行く企業さんも増えてきています。まさに日本人の新卒と同じ思考で、プロパー（生え抜き社員）でも新卒で採りたいという企業がすごく増えてきています。

—— 企業はどのような理由で外国人を採用していますか。

一番多いのは母国との関係ですね。例え

ばタイに現地法人をつくるということになると、現地とのブリッジになる方でなおかつ日本語や日本のことがよくわかっている人が欲しいので採用したいという。対象国がきちんと決まっているという採り方をする企業さんが非常に多い。

一方、短期観光ビザが免除になってタイやマレーシアから観光客がたくさん来るようになり、ホテルやデパート、飲食業などでタイ語が出来る人が欲しいというニーズも出てきています。

いわゆるグローバル企業と言われているところで、ダイバーシティ（多様性）の推進のようなことを謳っている企業さんも少しずつ増えてはきていますが、圧倒的には現地と日本を繋ぐ為のブリッジ人材というところがまだまだ多いですね。

—— 留学生の日本就活に対する意識は変わってきていますか。

このビジネスをスタートした頃は大学や専門学校、日本語学校で、留学生に特化した就職指導をするという学校さんはまだそう多くはありませんでした。就職イベントをしても茶髪でTシャツを着て企業のブースに座るような学生もいました。個人的には全員が同じような黒いスーツを着ているというのは実は違和感があるのですが、日本の就職活動というのはそういうもののだと、というのがあり、企業が外国人を理解するよりも外国人が日本の就職活動を理解するほうが早い。何回も面接をして、筆記試験も受けて、内定までに長い時間がかかって・

理解できないことも多いと思うのですが、もしあなたが日本企業に入って自己実現をしたくて、その後のキャリアプランを描いた時、例えば将来事業を興したい、自国で何かしたいということであれば、どういう企業に行けば一番将来のなりたい自分に近づけるか、考えましょうと。

なんとなく日本に来たからチャンスがあれば就職したいというだけの学生はまず就職は難しいと思います。どうしても就職したいという学生は、その辺りの覚悟が違うのと、真面目に自分はどうしていけばいいのかということを考える、またはきっかけを与えれば考えられる学生が多いです。

そういった部分のサポートをされる学校さんがここ数年多くなり、学生も意識が変わってきた。世界のスタンダードは大学卒業後に就職活動をするのですが、日本だけ就職活動が在学中の一大イベントみになっている。しかし留学生もそれによって人生のチャンスが広がると考えて、自分も日本の企業で活躍したいという思いを持つ。そういう話をたぶん学校でもされていて、学生が変わってきたんだと思います。

—— 企業側の留学生採用のハードルと、いうのはいかがでしょう。

ハードルの上げ下げということではないですが、都市部の企業などは留学生をかなり採り始めていて、その中で失敗したり成功したりしながら自社の体験を積んでいるのだと思うんですね。外国人を採る時にこ

これは大事、例えば日本語レベルについて、特に営業しに行く人でなくても、社内のメールが読めないとダメだとか、会議の内容が理解できないとダメだといったようにですね。

そういった企業自体の基準のようなものを自社で持つようになってきて、自分のところではこういう人を探りたい、ということが見えてきた企業が以前よりも増えてきています。ですからもっとそういう企業が増えてくれば留学生の就職のチャンスも広がると思います。

—— 業界のリーダーのような企業でも本当にここ2-3年で外国人をとり始めたところが多く、意外に思います。

それが現状で、地方に行くともっと少数です。当社は官公庁事業等で、地方の県での啓発であったり、学生の教育であったりマッチングであったりということをやっていますが、そこで感じたのは外国人＝ブルーワーカーのように捉えているところがまだまだ多いということです。地方の国立大学大学院を出ているのに部品の組立をさせるために採用したいといったような大きな勘違いが生じているんですね。私たちは東専各さんといっしょに採用促進セミナーを8年くらいやってきて、企業に留学生を採用することがどういうことなのか、実際に採用した企業に事例を報告していただきながら、セミナーをやっていますが、そういうものをかなりやってきてようやく企業さんが変わってきたなと感じているところ

です。

—— 日本の大学を出ていないと就職が難しいということはありませんか。

専門学校に進学している学生というのは母国なりで大学を卒業しているケースが多いです。大学を出てもなかなか就職ができないという国もあり、日本の専門学校に入って、日本での就職を目指すということもあります。

いずれにせよ、まずは就職に対する目的意識がはっきりしていることが大切です。あえて専門学校卒業生がいいという企業もありますし、専門学校からは採らないという企業でも、母国でこういう専攻で大学を出ているという話をすると前向きになることもあります。

逆に今まで日本の大学を出ていなければダメだと言った企業は少ないですね。自国などで学位を取っていれば日本で高等教育を受けていなくても直接就職できる。学位をとっているだけで高度人材扱いになるわけで、日本語学校からの直接就職も大いにありだと思います。

—— 母国の大学を出てから日本語学校に入り日本で就職するということですね。

日本語学校さんでもビジネスコースを設けているところが増えてきており、そういうところで授業させていただくことも増えています。N2レベル以上くらいの方々が集まって、ビジネス日本語の勉強に加えて私たちのような外部の人間が就職の心構え的なことや、接遇マナーと

いったことを教える。そういったことを取り入れてやっている日本語学校もけっこう増えてきています。

日本語学校のビジネスコースに入るとするのは、母国の日系企業で働きたいという人にとっても損ではありません。私はもともとこの仕事を始める時、日本語学校からの就職って大いにありだと思っていましたし、そういう人を紹介できることを当社の強みにしたいと思っていました。

日本語学校さんには多様な目的を持つ学生さんがいらっしやり、その人たちをうまく企業さんが活用されるケースも増えてきています。日本語学校から直接企業へというのは、大いにありだと思います。

—— 有名大学を卒業していたほうが就職には有利という事実はあると思いますか。

海外で募集力のある大学さんは、現地で高いレベルの学生さんが入学するケースも多いので、必ずしも日本の大学のピラミッド型に留学生は当てはまらないのですが、そういうことを知らない企業さんも多いので、やはり日本の有名大卒の人だけが優秀であると見てしまう。まだまだ老舗の大手企業さんなどはそういう採り方をしています。一方でベンチャーなどには大学にこだわらず人物重視で探るところも多いですし、学歴主義ではなくて、本人の意欲とか目的意識とか、そういうところを見ている企業もあります。

—— 一部企業に英語を社内公用語にす



オリジネーターが参加する  
地域中小企業の海外人材確保定着支援事業

る動きがあるようですが、日本語の重要性についてはいかがでしょうか。

日本は英語を使わなくても生きてこれた国であったので、企業の意識の中もそうですし、急に英語でビジネスを、などということは無理があるように思います。トップや上層部が外国人だったら英語を使いましょうということになりますが、トップが日本人なら日本語で話した方がビジネスも進むわけです。ですから、日本の企業は超大手から中小企業にいたるまでこれからも日本語で仕事を進めるところが大半かと思います。そうになると、やはり日本語力というのはすごく大きくて、もっと言えば日本語力がこれからもっと問われることになると思います。ですから、国としても日本語



力を上げたり、日本語の推進をしたりといったことをもっと推進していくべきではないかと思っています。

私はずっと日本語の世界にいてそこから出たわけですが、外に出てみると、実は日本語教育はものすごく大切なポジションにあり、その意義というのはとても大きなものがあるなと感じています。なので、もっと業界として動くというか、日本語教育をどうやって国としてやっていけば、経済界に繁栄されていくのかといった動きが根本からできないといけないのではと思っています。

—— 実際日本語力ということでは、どの程度のものが問われるのでしょうか。

企業は日本語の専門家ではないので、実際その人の日本語が本当に下手なのかはわからない場合が大半です。企業側が留学生の力を汲んであげる基本的な基準を設けていくのもこれからでしょう。日本語の先生が見て、この学生は日本語を50時間程しか勉強していない、というの

はわかりやすいんですが、先生方が見る日本語レベルと企業側が見るレベルというのはちょっとずれがあると思います。日本語能力が“高い低い”ということと、企業が日本語が“上手い下手”というレベルは少し違う気がします。

日本語学校の先生はいろんなレベルの日本語に接していますから、日本語を勉強したての学生とも日本語で話せますよね。だいたいどれくらいのボキャブラリーがあって、こう話せば通じる、こういうゼスチャーで示せばわかるということがわかります。でも企業さんはまだそこまで留学生側の意図を汲んでくださる方が少ない。私はよく企業に、下手な日本語に慣れてくださいという話をするんです。一方で留学生にも、「～させていただけませんか」など、込み入った敬語は使わなくていいから、丁寧にわかりやすく話すよう、心がけてくださいと伝えています。

企業にも「外国人を受入れるんだから自分たちも変わろうよ」というところが最近少し出てきています。そうしたことも含めて外国人を積極的に採ろうという企業が増えているという感じがします。

—— 日本語学校としては企業に日本語が上手だなと思ってもらえるような指導が必要ですね。

例えば、出身国によっては母国語の癖が強くなかなか発音が上手にならない場合があります。企業に紹介する時に、持ってい

る日本語力はすごく高いと思うのですが、企業からするとその発音だけで日本語が下手だと思われてしまう。文章を書かせるとすごくきれいな文章を書いて、語彙力も十分にあるのに、聞き取りにくいから下手だと思われてしまう事はあると思います。

発音矯正というのはなかなか難しいと思うのですが、例えば話し方、話す時の文章の区切り方を教えるというのでしょうか。ビジネス日本語といっても何を教えていいかわからないというのはその通りだと思うのですが、そういった話し方一つを改善するだけで印象はかなり変わると思います。

繰り返しになりますが、企業側の留学生への理解と、学校と留学生の企業への理解がどんどん近づけば近づくほど就職の機会は増えていきますし、企業の外国人留学生の活用の機会も増えてくると思います。

—— 学生は日本語以外ではどんな準備をしておくべきですか。

まず、企業のことをよく勉強しておくことですね。留学生に何がやりたいかと聞くと必ず「貿易」だといいますが、貿易会社だけではなくて、ブリッジ人材は今、メーカーでも小売りでも物流でもどこの業界でも必要とされています。その中でマーケティングでも企画でも、それをするためにはどういう技術が必要であるかということを知っておかないといけないわけです。営業がやりたいと言っても、法人営業と個人営業では違いますし、メーカーでの営業と小売りの営業は全然違います。そうした

ことを勉強し、自分の向き不向きをまず考えること。そしてどんな業界に興味があるのかということを考え、業界がある程度決まったら、その中でどういう企業がいいかということ会社を比較して決めていく。この会社とこの会社を受けたいという理由を明確にすることです。

日本語力とともに不採用になる理由は自分が受ける企業のことを余り理解してないということです。面接にしても筆記試験を受けに行くにしても、相手のことを理解しないで行くというのは論外ですよ。もちろん隅から隅までその会社の業務内容を知るのには難しいと思うのですが、キーとなるようなその会社の特色をちゃんと捉えて、自分がやりたいことと合致してるんだということを中心に説明できるところまで、私たちは留学生にアドバイスをしています。

—— 面接で、何年くらい日本にいるのかと聞かれて答えに困る学生が多くいるようです。

もちろん留学生本人の意向によりますが、「できるだけ長くいたい、できるだけ長く働きたいと思っています」と言う学生は多いと思います。ブリッジ人材の場合、数年で現地に幹部候補生として行かせたいという場合もあり、学生の希望はそこにマッチするということもあります。それこそ終身雇用制度べったりだった時代に比べて日本人でも離職率は高いわけですから、一生働きたいと言う必要はありません。

本当はどのくらい勤めたいのかと聞く

と、3年から5年くらいと言う人が多いですが、3年から5年だったら本当にそこで力をつけて、新たな道が切り開けるかもしれない、企業もその道を見つけてくれるかもしれません。また本人が希望すれば現地に帰ると言う道が作れるかもしれません。

——— 最近は直接現地で採用をするというケースもありますが、うまくいっていますか。

実際かなり予算を使って海外人材を採用している企業さんもありますが、残念ながら離職率の高さを課題としているところも多いようです。日本企業の場合、やはり自分がこの先にどうなるか、先が読めない、それを学生側に伝えられないというのが一番の問題のように思います。

もっと上手にビジョンを描いてあげれば彼等もっと動けるのに、伝えなきゃいけないことを伝えていなかったり、妙な閉鎖主義に陥ってしまったりとか。本当は期待されているのに、その期待値が外国人に限らず新入社員に伝わってないということはよくありますね。

日本人の仕事観や働き方は世界の中でもある意味特殊です。ですから、私は3か月でも6か月でもいいから日本語学校に通っ

【リュウカツ・ネット】は 留学生の就職活動をサポートします！

外国人留学生のための就職活動NET  
リュウカツ・ネット

3分で簡単登録  
全国の留学生採用企業情報掲載  
企業内業務アルバイトインターシップ掲載開始

リュウカツから採用情報  
就職相談・カウンセリング  
就活セミナー・進学相談  
リュウカツ・ネット主催  
就職フェアへの参加

今すぐ、【リュウカツ・ネット】にアクセス

日本語サイト リュウカツ 検索  
www.ryugakusei.com  
English Website ryukatsu 検索  
www.ryugakusei.com/en/

facebook  
リュウカツ！留学生の就職支援  
www.facebook.com/リュウカツ で検索

無料

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-19-12 monparte 北参道 6F  
TEL 0120-508-528 E-mail: info@originator.co.jp URL: http://www.originator.co.jp/

オリジネーターが展開する  
リュウカツネット

て日本人の考え方や習慣を肌で学ぶ期間を作ったほうが絶対が良いと思うんです。日本企業というのは多国籍スタッフに慣れていないので、相手がいかにも外国人という雰囲気でしたら、受入れるのは大変です。誤解もたくさん生まれるでしょう。

——— 外国人材を採用するのなら、日本を知る留学生が最良ということですね。ぜひ多くの留学生が良い企業と出会えるよう、今後のご活躍を期待しております。

株式会社オリジネーター

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-19-12 monparte 北参道 6F

☎ 0120-508-528 E-mail: info@originator.co.jp

http://www.originator.co.jp/

## 就活応援インタビュー②

株式会社トモノカイ 留学生支援事業部

### エンピ カンデルさん

——トモノカイの留学生支援事業について教えてください。

トモノカイでは家庭教師の派遣（東大家庭教師友の会）や塾講師の求人サイト（塾講師ステーション）の運営を行っており、約4万人の学生登録者がいます。現在そのうち外国人留学生在が1600人いますので、就職支援を含めた彼等の生活支援を一つの事業としておこなって行こうということになりました。

留学生支援に関する事業としては、まず日本語学校に講師を派遣して大学・大学院入試のための勉強を教えています。

次にアルバイトの紹介です。将来就職するのであれば、就職に役立つアルバイトをしてもらいたいということで、大手企業の事務のアルバイトやリサーチ業務、語学講師、通訳・翻訳といった仕事を紹介しています。

3つ目が異文化交流事業です。日本人と接点を持たない限り日本語はうまくなりませんし、日本の文化や慣習もなかなか学べないということで、異文化交流プログラムを紹介しています。例えば新潟に2泊3日で行ってもらい、日本の家庭にホームステイをして、日本の普通の家族がどういう生活をしているのかということを経験してもらおうとともに、地元の中学校で学生達と交



流をしてもらおうといったことをしています。

これは日本の学校にとっても良いことで、例えば修学旅行などで海外に行きますが、これまでは帰国前や帰国後のフォローができていませんでした。そこで日本にいなから海外の人たちと触れ合う、英語を話す機会を作りましょうということで、学校と旅行会社と我々で一緒にこうした異文化交流のプログラムを作ったわけです。

基本的に、こういった体験ができずに帰国している留学生は多いと思います。アルバイトも居酒屋のホールスタッフだけだったり、仲の良い日本人の友達もいなかった

り。そうすると日本人とどう接すればいいのかわからない。結果、将来の就職も難しくなるわけです。

—— 日本語学校の就職希望者は多いのでしょうか。

この前もある日本語学校の進学説明会に就職相談担当として参加したのですが、私のブースには80人程の人が来ました。つまり日本語学校生でも就職したいという要望は高い。しかし大学生と違ってどうすればいいのかわからないんです。だからゼロから教えないといけないわけですが、アルバイトも日本語の勉強もしなければならない中で就職活動をするというのは非常に厳しい。そこで、日頃から生活の中でもできるようなことをするというで、先程のアルバイトや異文化交流のようなことをしてもらおう。さらに我々が就職のノウハウを教えながら企業さんを紹介することが出来れば日本語学校の学生であっても就職はできると思います。

大学に行った学生と日本語力では差がありますが、今、日本の企業は海外の大学に行って日本語がまったく出来ない人を採用していますから、それなら日本語学校の学生にもチャンスはあるということです。

もちろん日本語ができること、最低N2レベルを持っていることが前提条件になりますが、母国なりで4年生大学を卒業している人であれば難しくないと思いますね。

—— 留学生の就職に対する意欲について、どのようにお考えですか。

留学生の場合3パターンがあって、モチ

ベーションの高い人と、中間の人、下の人に分けられます。

これまでいい人との出会いがあった人はモチベーションが高いですね。日本人でも外国人でも、その人を指導できる、アドバイスできるような人と出会っている人はかなり良い方向に行っていて、仕事も見つかりやすい。

中級クラスの人にはなんとなく良い方向に行かないといけないという気持ちはあって、とりあえずやっているけれどなかなかうまくいっていない。このクラスの人たちは私達がお手伝いすることで変われます。

下の人には基本、人との出会いがなく、どうすればいいのかわからないから、とりあえずアルバイトを続けて行こうという感じの方々ですね。

セミナーをやると、上級レベルの人からはその日のうちに、中級レベルの人からは一週間くらいで私のところに連絡が来ますね。1割くらいが上級で3割くらいが中級、半分くらいはダメということになります。その半分をどのように変えるかというのは、今も私の課題になっています。

—— どのようなことで学生の意識を改革するのでしょうか。

まずやってもらうのは個人の夢を作ってもらうことです。自分も日本に来る時は人材の仕事をするとはまったく思っていなかった。商人の息子なので商社しかないと考えていたわけです。でも今はこの仕事に向いていると思っています。なぜ向いているのかわかったかということ、自分は人に何

かを教えたいという将来の夢があったからです。この仕事は「教える」ことですが、商社だったら「売る」ことになります。そこが違う。それを自分で認識しないとけないんですね。

まず初めに学生に言うのは個人の夢を作りなさいということです。例えば何歳で結婚して何人子供を産んで、どんな車を持ちたいのか、家をいつまでに買いたいのか。グループワークをやる時に書いてもらいます。そうするとだいたいみんなスラスラと書くんです。そこから少し難しく入って、それじゃあそのために何をやればいいのかと。自分の趣味は何か、どんなことをやったときに一番喜びを感じたか。そういったところを掘り下げてもらいながら、だったらあなたはこういうことに向いているかもしれない。そこから仕事を探しましょうとなるわけです。

実際の仕事では「私は家を買いたいからこうやろう」と言っても誰も付いてこない。でも「この仕事をやることによって、世界にこういう価値のあるものを残せますよ」と言うことで人が付いてきてその仕事を達成できて世の中が良くなれば自分にも良いものが返ってくる。そういうことをイメージして夢を作るということです。

留学生の需要はけっこう高いんです。でも企業が求める人材にはなっていない人が多い。最近では日本人でも夢をあまり持てない人が多く、モチベーションも非常に低くて優秀ではないから、外国人を採るんだという企業も多いんです。そういった中で

外国人も日本人と同じようになってしまったら採用されないんです。

—— 学校の役割についてはいかがでしょう。

例えば日本語学校は寮を持っていますが、同じ国の人を同じ寮に住まわせて欲しくはありません。一緒に住ませることによって一番日本のことがわからなくなります。例えば中国人が中国人と一緒に暮らして中華料理屋で働いている。学校の中でも中国人とだけ交流するから、先生の声以外は全部中国語。これでは中国で生活をしているのと同じです。ですからいろいろな国の人を混ぜる。そして共通語を日本語にする。そうすることによってグローバル人材をそこで育てられます。

就職の面接では「学生時代に何をやりましたか？」と絶対に聞かれますが、そういったことをやってきた学生は違いますね。日本語学校も就職支援をするのだったら、日本語を教えることも大事ですが、生活環境をまずは変えて、アルバイトも適切なものを紹介してあげるといったことをする必要があります。

—— 普段のアルバイトが就職への重要なステップになりえるということですね。

我々は留学生は金銭的に苦しんでいることは知っているのですが、どんな異文化交流の仕事であっても学校から謝礼を出してもらっています。夜勤のアルバイトを8時間して1万円稼ぐのと、学校で3-4時間教えて1万円稼ぐのなら、3-4時間の方がいいわけです。時給が良くて自分が成長で

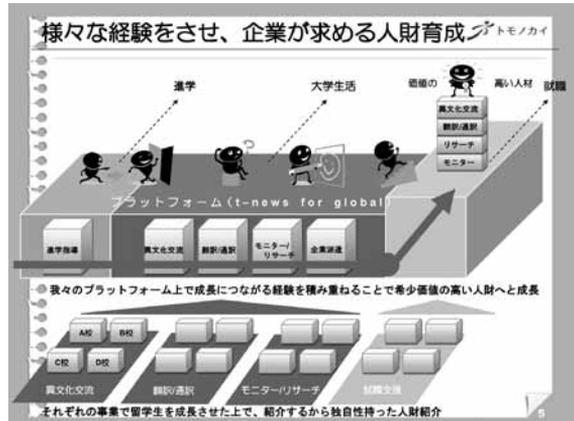
きるようなアルバイトを経験してもらい、それから就職だと思っただけですね。日本語学校時代は1年か1年半、長い人でも2年しかありません。だから来日した時からそういった活動をしてもらわないと本当に遅れてしまうんです。

居酒屋のホールスタッフやコンビニの店員の仕事がダメというわけではありません。ただ、そうした仕事の時も、ただ単純に言われたことをするのはなくて、今日はなぜお客さんが減ったのか、自分のサービスはどうだったのか、売り上げはどうだったのか、といったことを毎日考えることで違う自分になれると思います。

—— 全体として留学生の就職は増えているようですが。

2007年も1万人程の留学生が就職しているのですが、当時は50人以下の企業に入る人が多かった。しかし今は1000人以上の企業に入る人が多いですね。つまり昔は社長や役員につながりで雇われていたというケースが多かったわけですが、震災や日中問題をきっかけに、企業は工場の一点集中を止め、いろいろな国に進出するようになった。その結果、2013年度は上場企業の50%程度にあたる企業が留学生を採用しています。採用数自体も増えているので、これから留学生は日本人よりも採用されやすいと思います。

就労ビザに関して、最近はかなり出やすくなっていますが、企業に一つだけ気をつ



トモノカイの人財育成

けてもらいたいのは、外国人に何をしてもらいたいのかということをはっきりさせるということです。役所には、日本人に出来なくて外国人でないと出来ないことは何なのかということを理解してもらわないといけないわけです。そこがしっかりしていれば、社長1人の会社でもビザはおります。

例えば介護職の場合、以前は絶対に無理でしたが、現在では将来その施設が「海外で展開するのでその担当者として採用したい」という理由があれば、人文知識国際業務でビザがおります。

—— 留学生の就活上の問題点があれば教えてください。

まず、東京でないとダメと言うのが一つですね。もう一つが商社、メーカー、有名企業しか見ないということです。

また、やりたいことが自分に合っている職業かということと全然違う場合があります。私はずっと貿易を学んでいるから商社しかないと、思い込んでしまっているようなケー

スです。

例えば、ある金融機関への就職を希望する中国の女性に夢は何ですかと聞いたら、彼女は夢はないけど、将来的には中国に帰って、お年寄りとか町の人々に接する仕事がしたいという。そしてそれは銀行の窓口業務で出来ると言うのですが、窓口業務というのは銀行のほんの一部であって、出世すれば窓口にはいられないわけです。逆にお年寄りに接したり、町の人々と交流したりしたいのなら、現場で販売職として経験を積んだ方がいいわけです。結局彼女は私の紹介で、今ある大手のドラッグストアで働いていますが、とても喜んでくれています。私と出会ってなかったら、おそらくですが、彼女は日本での就職が叶わず国に帰っていたでしょう。

—— 自分だけで適性を判断し決めないほうがいいということでしょうか。

私達が一般に目にする会社の業務はその会社のほんの一部です。そういったところはインターンシップに参加することで少しはわかりますから、私は大手、中堅、中小企業、それぞれ異業種でインターンシップをやってその業務内容や違いを理解しなさいと指導しています。

そして、学生にはある程度自分で決めてもらいたいので、私は一回目会う時に、あなたにはこの業界が向いているとは言わないんですね。何もアドバイスをしないで話を聞きます。2回目3回目はその人の連絡次第です。その人が連絡をしてくれなければ私は企業を紹介しません。なぜなら自分

の将来は自分で決めるものですから。

そして面接の時に課題を出すんです。あなたはここが足りない。企業はこれを求めるからこれを勉強しておきなさいと言っておくと、私はやりましたよと連絡をくれる人とまったく連絡をくれない人がいます。その辺を私は見ていて、評価の基準にしています。優秀だけどまったくハウレンソウ(報連相)がダメな人は残念ながら難しい。それを根本的に教えないといけませんね。—— 就職、面接での注意点があれば教えて下さい。

どこの会社も「コミュニケーション能力を重視」と言いますが、留学生の場合は聞く力だと思うんですね。例えば面接で質問の意図をつかまないうで慌てて見当違いの答えをしている場合が多い。すると実は日本語力は凄くあるのに、企業からはこの人は日本語ができないと思われてしまう。

1、2回の誤解なら許してもらえますが、3回繰り返すとどんなに優秀でも採用されません。日本の面接はその人のどこがダメだったのかは教えてくれませんから、それは先生方や我々のようなアドバイザーが指導しなければならない。もし質問の意図がわからなければ「もう一度言って下さい」と聞きなさいといったようにです。聞き返すことによって、この人には、わからない時にはちゃんと確認する文化があるんだなと会社は思い、マイナスではなくプラス評価になります。

そういったところはそれほど難しいことではありませんし、学校と我々でそれを教

える活動を続ければ絶対にできるのではないかと私は思っています。

——では採用する企業側の問題はいかがでしょう。

企業にはまず現状を変えたくないという思いがあります。特に問題なのは、社長や人事は理解しているのに、現場の人が理解していないということです。外国人はよくわからないから受入れたくないという。そこは社長が、会社が目指すものを社員に示し、絶対に仲良くしなさいと徹底させないといけません。

宗教の問題も起っています。イスラム圏の人がお祈りの場所がなかったり、仕事にお祈りで抜け出したり、夜の付き合いに行けないことでマイナスの評価をされたりといったようにです。

そのほか私が見ていて問題だと思うのは、若い社員が、同期で入った外国人を一人ぼっちにしてしまうということです。5人新人が入って1人だけ外国人だと、付き合い方がわからないといって日本人4人で集まるようになる。すると、外国人は自分が必要とされていないのではないかと感じてしまう。

だから外国人社員を受入れる場合はまず外国人に興味を持っている社員、上司でも同僚でもいいので、そういう人を身近に付けなさいと言っています。特別なケアをする必要はなくて、食事を一緒にしたり、イベントがあればその人を呼んだりといったことでいいんです。そうやって仕事の中でも何かあったら相談できる関係を作る。そ

れが必要なのは最初の1年で、2年目からはたぶんいらないと思います。1年目は会社としても手厚いフォローが必要だと思います。

外国人社員は1年目、2年目、3年目は日本人より下かかもしれませんが、4年目、5年目は違います。優秀ですし覚えるのも早いですし、海外のことも日本のこともよく理解していますから、必ず日本人を超えらると思うんですね。

また、外国人の多くは大雑把です。逆に日本人はけっこうきめ細かい。留学生も会社もお互いのそういった特徴はしっかり認識しておかないといけないと思います。会社側はコピーの取り方一つにしても最初はゼロから教えてあげる。日本の仕事のやり方の文化はどんなに優秀な留学生でもわかりませんから、1年目はそういった気遣いも大切だということです。

——留学生、特に日本語学校生にアドバイスをお願いします。

私のイメージとして、学校だけ卒業して帰国する人は日本社会のことを2割も理解していないと思います。社会に入ると生活のスタイルからやり方、日本の社会はどんなものか、どんな人がどんな考えでどういうふうにいるのかを理解できるのではないのでしょうか。

ですから、ぜひ日本で就職してもらいたいです。東京以外にもいい仕事があれば行ってもらいたい。逆に全国を回るような仕事もしてもらいたいんですね。そして、1年で帰国したいという人もいますが、最



低3年から5年はやらないと、いい仕事はできないと思います。

今、日本語学校に通っている方は、国で大学を卒業しているのだったら、早めに日本語を身に付けてもらい、すぐに社会に出た方がいいと思います。もし学部に行くつもりなら、大学院に行くか就職をした方がいい。専門学校に入りたいという人は、厳しいところで日本人学生の多い学校に入って欲しいですし、先生方にも厳しく留学生を指導してもらいたいと思います。実際厳しいと言われる専門学校の場合、9割以上の留学生は就職できています。

日本語学校の学生さんには今から自分の将来を考えましょうねということをお願いです。アドバイスしてくれる人がいないのなら自分から探さないと。絶対に運は訪れます。それを自分が掴むことが大

事だということです。運は常に自分の目の前を通り過ぎていきますから、その瞬間を掴まなければ運は逃げてしまう。その運というのは、人との出会いだと思います。人との出会いを大事にする人には運がよく訪れると思います。私も人との出会いがあって、日本に来て、今この仕事をしていますから。—— エンピさんのご活躍で1人でも多くの留学生が自分に適した素晴らしい仕事と日本で出会えるよう、応援しております。

#### エンピ カンデルさんプロフィール

ネパールで大学生だった19歳の時、旅先の観光地でゴミ拾いをしている日本人と出会い、彼の「あなたの国を清掃しているのではない。私は自分の心をきれいにしている。自分の身の回りが汚ければ自分の心も汚くなるだろう」という話に感銘を受け、日本に関心を持つ。その後2年間ネパールで日本語を学びN2レベルの実力を付けた後、2005年来日。日本語学校を経て杏林大学総合政策学部に進学。在学中に出会った人材コンサルティング会社社長に誘われ留学生の就職支援、企業への人材紹介などを行う人材コンサルティングの道へ進む。これまで2000名以上の留学生の指導を行う。

株式会社トモノカイ

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-14-17 Daiwa 渋谷 SSビル 8F

Tel 03-5766-2006 E-mail np.kandel@tomonokai.net <http://www.tomonokai.net/e/>

## 就活応援インタビュー ～就活生に聞く

### ホ クアン ワイさん (Mr.HO KUAN WHYE) ～マレーシア

目白大学大学院 心理学研究科・現代心理学専攻 (修士1年)

—— 日本へ興味を持ったのはいつごろ、なぜですかですか。

日本の文化・・・アニメやドラマの影響を受けて、子供の頃から日本に興味を持っていて、高校2年生の時に日本留学を考えました。

—— 当初から日本で就職しようと考えていましたか。

日本に留学で来る時には、日本に就職して永住したいと思っていました。理由は自分でもよくわからないのですが、マレーシアの場合、マレー人を優遇する社会政策がありますから、そういったことが影響しているかもしれません。

—— 今回の就活セミナーに参加をしていかがでしたか。

勉強になりました。日本の企業にはどのようなタイプのものがあって、どんな文化を持っているのか、また、外国人は就職の際、どんな会社を目指すのか、どんな順番で就職活動をすればいいのかということがわかりました。

—— この夏休みにはインターンシップにも参加したそうですね。

大手旅行会社とIT系の会社のインターンシップに参加しました。旅行会社の方はマレーシアグループの友人に紹介されて、IT会社の方はマイナビという学生向けの就職



情報サイトに登録して見つけました。

—— どんな仕事をしましたか。

旅行会社では人事の仕事を希望しました。母も人事の仕事をしており、興味があったからです。

会社では最初の3日間はアイスブレイクといって、ゲームのような感じでお互いの自己紹介をしたり、経理の計算方法や旅行のプランニングなど旅行会社全体のことを学んだりしました。そして最後の2日間は実際に人事に関すること、社員の資料整理や、採用の際に必要な社会保険や給与計算などの手続きについて学びました。

また、日本の大学生を対象に自分の国の

旅行計画を作るというミッションが与えられ、最終日に社員の前で発表をしました。ただのプランニングではなくて、何時から何時に何をするのかということも細かく、できるだけ詳しいプランニングをするんです。

IT会社の方は、1日目は会社の説明会で残りの日は簡単なプログラミンをしました。プログラミングは子供の頃に勉強したことがあるので、実際に会社でどのくらいできるか、試してみたいと思ったのですが、やはりIT系の大学の人とは比較になりませんね。

—— 大変だったこと、印象的だったことはありましたか。

旅行会社では、社員が狭い机で真面目に仕事をしていることが印象的でした。みんな5時間、6時間トイレにも行かずおしゃべりもほとんどしない。残業もしますし、すごいなあと感心しました。僕も旅行プランニング資料の作成で残業をしたかったのですが、インターンシップは定時で帰らないといけないので、やるべきことは家でしました。とにかく1日が充実している感じでした。

—— 日本の就職活動についてどう思っていますか。

すごく難しいと思っています。自分の日本語はまだまだなので、心配です。特に人事のような仕事は人と関わる仕事なので日本語力があまりよくないと勤まりません。またプランニング発表の時は緊張もあって自分が思っていることをうまく伝えることができませんでした。

—— 就活のため、学生時代にやっておいたほうがいいと思ったことは何ですか。

まず日本語力を上げることですね。それから自分が今学んでいる学問に関する資格を取っておくことも就職に有利に思います。僕は心理学部で勉強しているので、社会心理士などの心理学の資格ですね。

英語もTOFELやTOEICを受けて点数を示せるようにしておきたいと思います。

—— 会社で英語は必要と感じましたか。

旅行会社には日本人とドイツ人の責任者が2人いて、ドイツ人とコミュニケーションをする時、僕等は英語しか使ってはいけないことになっていました。資料も英語と日本語がありますから英語は必要ですね。

僕は日常英会話には自信がありますが、ほかの社員もだいたい英語ができますから、それはちょっとショックでした。自分の英語は武器にならないと思ったからです。

—— 就職についてどんな希望を持っていますか。

普通の会社に就職できて、日本で普通の生活ができれば十分だと思っています。自分の能力はあまり高くはないので、有名な大企業などは希望していません。

インターンシップに参加してみて、自分の能力はまだまだ足りない、このままではいけないということを感じました。英語はビジネス英語、専門用語の勉強もしておきたいと思っています。日本語は1級を持っていますが、実際の会話、コミュニケーション力が弱いとそれを示しても有利にはならないと実感しました。

—— ありがとうございました。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

# 泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

## ⑦ プレゼンテーションの指導

當山 純

泰日工業大学の日本語コースでは、教科書を使った学習の他にも、プロジェクトワークとして、一般の日本人と話す交流会や、プレゼンテーション、スピーチ、スキット（寸劇）など、いろいろな活動を行っている。こういった活動をするのは初めてという学生も多いし、それを不慣れな日本語で行うのであるから、個別指導をしながら段階的に進めていくことになる。

各教師が担当しているクラス数も2つや3つではないので、この個別指導には結構な時間を使うことになる。しかし、それだけではない。この指導、教師の力が問われるものだと感じている。ちょっと考えればわかることだが、このエッセイをひとつ書くのにもひいひい言っている私が、偉そうに学生に「おもしろいプレゼンをしろ！」なんて言えた義理ではないのだ。それで当然、私も学生と一緒に頭をひねって考えることになる。

個別指導は、教師にとっても学びの場である。学生が本番で「できた！」と思えるようにするにはどんな指導をすればいいのだろうか。この活動を、「伝わった」（または「伝わらない」）と肌で感じられる体験にするには、どうしたらいいのだろうか。学生が行うプレゼンテーションを見て、そこから指導について考えることも多い。間違いのない完璧なスクリプトも、一般的に良いとされている構成

も、美しいパワーポイントのスライドも、それだけではいいプレゼンテーションを保障しはしない。最近、結局必要なのは「伝えたい」という意思なのではないのかと私は思ったりしている。発表する人みずからが「おもしろい」と感じて、それを他の人にも「伝えてみたい」と思えるものを一緒に探し、それを表現できるよう励ましていくにはどうしたらいいのだろうか。

表現が中心となる活動をしていると、しばしば知っている言葉や文法が少なすぎてまだ無理だ、たどたどしい日本語を人前で話すなんて恥ずかしい、といった不安を感じることもある。これは、学生のみならず日本語教師もそう感じている。いや、むしろ、私たち日本語教師がこういった「正しさ」や「美しさ」の呪縛からのがれられず、それを学生がかぎとってしまっているのだろう。「正しさ」「美しさ」にとらわれすぎて、そこで何が抜け落ちてしまっているのか気付かないようでは本末転倒ではないだろうか。

ところで、授業は一種のプレゼンテーションでもある。私たち日本語教師は何に対して「おもしろい」と感じて、学生に何を「伝えたい」と思っているのだろうか。プレゼンテーションの指導について考えていたら、この間に行き着いた。

# Event & Festival

## アジアフォーカス福岡国際映画祭 2014

1989年にスタートし、今年で23年目を迎える福岡国際映画祭。今年は18カ国・地域39作品、協賛企画を含めると25カ国・地域210作品が上映されます。開催期間中は各国から監督や出演者が来日し、セミナーやサイン会、舞台挨拶などが行われます。

- ★期間：9月12日（金）～9月21日（日）（12日はオープンセレモニー等）
- ★入場料：1作品券 1,300円（前売1100円）  
中高大生・留学生 500円、5作品券 5,500円（前売4,400円）  
フリーパス 13,000円（前売11,000円）※小学生以下無料
- ★主要会場：キャナルシティ博多
- ★主催：アジアフォーカス・福岡国際映画祭実行委員会、福岡市
- ★ご連絡・お問合せ：TEL：092-733-5170 受付10:00～17:00（平日のみ）  
E-mail：info@focus-on-asia.com 公式サイト <http://www.focus-on-asia.com/>



予兆の森で（イラン 2013年）



ひとり（カザフスタン 2013年）

## 映画「So Young ～過ぎ去りし青春に捧ぐ～」

<解説> 1990年代の中国の大学を舞台に、若者たちの淡く切ない初恋と青春群像をノスタルジックに描いた秀作。「少林サッカー」や「レッドクリフ」などで知られる人気女優ヴィッキー・チャオの監督デビュー作である。

<ストーリー> 18歳のウェイは、初恋の先輩を追い同じ大学に入るが、彼はアメリカへ留学してしまう。そんなある日、傷心のウェイは真面目で無口なチェンと知り合い、やがて互いに恋に落ちていく。しかし4年間の大学生活が終わる頃、人生の岐路に立つチェンはウェイと別れて留学の道を選択する……。

9月13日よりシネマカリテ（東京・新宿）、名演小劇場（名古屋・栄）他順次ロードショー



[www.alcine-terran.com/soyoung](http://www.alcine-terran.com/soyoung)

## 国際シンポジウム「2020年へ、日本は世界に何を発信できるか」 ～「日本力」を世界へ 森喜朗元首相ほか国内外の識者が議論

東芝国際交流財団は設立25周年を記念し、日本経済新聞社、日本経済研究センターと共催で国際シンポジウム「2020年へ、日本は世界に何を発信できるか」を実施します。

第一部では日本の歴史・文化に詳しい海外の講師が、日本人自身が気づきにくい点を含めて分析します。第二部ではその分析を踏まえ、産業、経済、統計など幅広い観点から学識者が議論します。これらの議論を通じて「日本力」を世界に提案します。

◆日時 10月3日(金) 13:00～16:40

◆会場 日経ホール(千代田区大手町1-3-7)  
東京メトロ、都営地下鉄「大手町駅」下車C2b出口直結

### ◆プログラム

第一部 講演「海外から見た日本への期待」

バラク・クシュナー 英ケンブリッジ大学 准教授

キティ・プラサートスック タイ・タマサート大学 教授、東アジア研究所長

第二部 パネル討論「日本力の世界への提案」

パネリスト

岡村 正 株式会社東芝 相談役

大田 弘子 政策研究大学院大学 教授

本川 裕 アルファ社会科学 主席研究員

間野 義之 早稲田大学 教授

モデレーター

畠 信彦 公益財団法人東芝国際交流財団 審査委員長

◆定員 600名 受講無料、事前登録制、応募締切は9月19日(金)

◆申込方法 公式ホームページからお申し込みください。応募多数の場合抽選。

◆公式ホームページ <http://nihonyoku2020.jp/>

◆お問い合わせ 東芝国際交流財団 ☎ 03-3457-2733 E-mail: tifo@toshiba.co.jp

## ABK秋祭り2014

アジア文化会館では、秋の恒例行事となった秋祭りを開催します。留学生の手作りによる各国料理、民族ダンス、楽器演奏などをお楽しみ下さい

◆日時: 10月25日(土)

◆会場: アジア文化会館〔都営三田線千石駅徒歩5分〕

◆時間: 12:00～(入場無料)

◆主催: アジア文化会館留学生自治会



## 奨学金情報

がいこくじんりゅうがくせいだいがくいんじょししょうがくきん

### ■ CWAJ 外国人留学生大学院女子奨学金 (NJG)

●**対象**：①日本以外の国籍を有し、かつ日本に永住権を持たない女性で、2015年度（2015年4月－2016年3月）に日本の大学院に学位取得を目的に在籍していること。②応募時に勉強のため日本に在住していること。海外からの応募はできない。③英語および日本語の小論文を書いて提出すること。④同時期に日本国または他国政府、他の団体や公的機関から年額150万円を超える奨学金や助成金を受ける者、企業留学している者は、応募できない。ただし、学費ローン、授業料免除および在学している大学の仕事で得た報酬は助成金にあたらぬ。

⑤これまでにCWAJから奨学金を受けたこと

のある者、およびCWAJのメンバーは、応募できない。

●**給付金額**：200万円

●**募集人数**：1名

●**応募方法**：出願書類を団体に郵送。願書はCWAJウェブサイトよりダウンロード。

●**募集期間**：2014年10月9日（木曜日）～10月22日（水曜日）最終日消印有効

●**団体連絡先**：141-0021 東京都品川区上大崎2-24-13-703 CWAJセンター CWAJ奨学金委員会 NJG Program

<http://www.cwaj.org/scholarship/njg-j.html>

●**問合せ先**：E-mail scholarship@cwaj.org

## イベント情報

ごうどうかいしゃせつめいかい しゅうしょくしえん

### ■ 合同会社説明会と就職支援セミナー < 2014年9月～2015年1月 >

① **合同会社説明会**（参加企業（株）ヨロズ、アネスト岩田（株）、（株）マス商事、（株）大栄製作所）

●**日時**：9月26日（金） 15:00～17:00

② **就職支援セミナー**（1）9月26日（金）留学生の就職状況と日本的就職活動について、（2）10月17日（金）大学の専攻・専門と会社における仕事について ③ 11月14日（金）企業の探し方と企業研究 ④ 12月19日（金）エントリーシート の書き方 ⑤ 1月9日（金）採用試験の面接対策

- 時間**：各回 18：00～19：30
- 会場**：①②とも、KANAGAWA STATION [かながわ県民センター2F]
- 主催**：神奈川県
- 運営**：N P A <http://www.kanafan.jp/work>  
Tel: 045-620-5940 E-mail: kanafanstation2014@gmail.com

## ■ 2014年度 外国人留学生向け 懸賞論文募集

論文テーマは「生命保険に関する内容」。保険制度について学んでいる方も、これまで興味になかった方も、これを機会に自由かつ豊かな発想で是非応募してみてください。論文は、必ずしも保険についての認識度の高さを問うものではありません。どのような切り口、アプローチでもかまいません。

- 応募テーマ**：生命保険に関する内容
- 応募締切り**：2014年10月31日
- 賞金**：最優秀賞50万円(1編) 優秀賞30万円(1編) FALIA賞(2編以内)  
佳作賞10万円(数編) 努力賞5万円(数編)
- 応募規定**：詳細は、主催者ホームページ (<http://www.falia.or.jp/>) にてご確認ください。
- 主催**：公益財団法人 国際保険振興会 (FALIA)

# MEMBERS

## 〈会費とご寄附の報告〉

### 2014年6月

#### 正会員

(1口)

内山 敦之	中野区
樋口 隆一	文京区
鈴木 八重子	志木市
竹嶋 栄子	松戸市
庄司 龍平	神戸市
外山 経子	八王子市
菊地 絵里奈	葛飾区
斎木 史	足立区

#### ご寄附

秋山 富士子	川崎市
斎木 史	足立区

### 2014年7月

#### 正会員

(1口)

豊島 正大	横浜市
佐藤 郁夫	仙台市
樋川 好美	文京区
忍足林基	江東区
橋本 イズム 弥 - ル	坂戸市
広田 誠四郎	高崎市
大里 浩秋	逗子市
荒川 雄彦	北杜市
中西 鶴子	名古屋
木下 幹康 / 澄江	狛江市
近山 武子	横浜市
大杉 立	つくば市
森尾 正照	北杜市
小田中 聰樹	仙台市1
清水 国夫	中郡大磯町
倉内 憲孝	池田市

大田原 康彦 / 真澄	仙台市
山田 裕子	三鷹市
山田 守一	港区
藤原 一枝	武蔵野市
奈良 自起	大田区

#### ご寄附

岡崎 道子	池田市
小木曾 大	調布市
小山内 美江子	横浜市
山田 裕子	三鷹市

皆様の暖かい御支援に感謝申し上げます

## ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

## 協会のあらまし

名称：公益財団法人アジア学生文化協会  
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設立：1957年(昭和32年)9月18日  
故穂積五一氏創設

目的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

## ◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営(進学希望者向けの日本語を中心とする教育)
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

## ◆会費(年額)◆

正会員 1口 1万円  
賛助会員 1口 5万円  
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円(学生2千円)でお送りしています。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

## 本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

おかげさまで、当財団は2014年4月1日に公益財団法人に移行しました。これまでご支援いただきました皆様には大変ご迷惑をおかけしておりましたが、これにより会費並びに寄附金は税制上の優遇措置の対象となります。今後とも、皆様のご支援の下、これまでと同様留学生宿舍の運営、留学生への情報提供、同窓会活動等の活動を通じ、アジアの青年の育成と友好親善のために微力を尽くす所存です。引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

## 後記

この夏、東京は熱帯のような日照りが続いた。その後は、集中豪雨が日本各地で大きな被害をもたらした。広島では100人近い犠牲者まで出た。一方、熱帯病のデング熱の発症が東京・代々木公園の蚊に刺された人から確認され、すでに各地で100名近い人の発症が確認されているが、どこまで拡大するのか心配ではある。(F)

7月25日の晩、ABK地下旧食堂で、トルコ人留学生がラマダン明けの食事会・イフタールを催した。この会には60名以上の学生・職員が招待されご馳走になった。トルコ料理は、全てトルコ人女子留学生5人で用意したものです。お腹を一杯に満ちた留学生達の笑顔とにぎやかな会話が会場を満ちました。感謝、感謝です。

今年日本とトルコの国交樹立90周年にあたる年です。先日、近隣の東洋文庫でトルコ展を覗いてきました。展示の中には、明治天皇の表敬を終え、帰国するトルコの軍艦エルトゥールル号が和歌山県・紀伊半島沖で沈没(1980年9月16日)し、乗組員500名余りのトルコ人が亡くなった海難事故の説明が写真に添えられていました。そして、この事故の救援活動に地元の人をはじめ多くの日本人が献身的に携わり、回復した生存者69名を無事本国へ送還したことが、その後トルコで語り継がれ、トルコ人に親日感情を生んでいるとの説明がありました。(F)

(お詫びと訂正)

本誌 509 号に以下の誤りがありました。お詫びして訂正をさせていただきます。

6 頁左段 8 行目(誤) 蒲田総長 →(正) 鎌田総長

7 頁下から 4 行目(誤) 株式会社 →(正) 株式会社

34 頁「お便り」の 10 行目(誤) 有効関係 →(正) 友好関係

## アジアの友 2014年8-9月号

2014年8月20日発行(通刊第510号)

年間購読(送料共)3,000円(学生2,000円) 1部 500円(税込)

発行人 小木曾 友

編集 アジアの友編集部

発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)

電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754 E-mail：tomo@abk.or.jp

ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email：tomo@abk.or.jp

Home Page：http://www.abk.or.jp/

「アジアの友」の購読会員(年3,000円・学生2,000)にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。



学校法人 ABK 学館

# ABK学館日本語学校

所在地 〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-12

電話番号 +81-3-6328-3428 FAX +81-3-6328-3393

URL <http://abk-college.com> E-mail [college@abk.or.jp](mailto:college@abk.or.jp)

## 2014年4月新規開校



**ABK**  
COLLEGE

2013年1月に完成した新校舎  
新築3階建て校舎。最新の設備設計を採

### - 留学生の絆が作る日本語学校 -

ABK学館日本語学校(英語名称:ABK COLLEGE)は1957年に設立された(公財)アジア学生文化協会が寮生活や日本語を学習した留学生、そして多くの関係者のご寄付と献身的な協力により、学校法人による日本語学校として2014年4月に開校します。当校には姉妹校のABK日本語コース(公財)アジア学生文化協会もあり各種協力を行います。



授業風景イメージ



寮の一例



ABK日本語コース

ABK COLLEGE

### ABK COLLEGE (学校法人ABK学館 ABK学館日本語学校)

東京都認可日本語課程(大学院・専門学校・就職・文化体験等)

4月 1年コース	860時間/1年	入学検定料	20,000円
		入学金	80,000円
		授業料(施設・教材費含む)	620,000円

### 姉妹校 ABK日本語コース(公益財団法人アジア学生文化協会)

文部科学省指定大学進学準備教育課程

4月 1年コース	1086時間/1年	入学検定料	20,000円
		入学金	80,000円
		大学進学 日本語課程 大学進学 準備課程	95,000円
10月 1.5年コース	1586時間/1.5年	授業料 (施設・教材費含む)	720,000円(1年) 1,080,000円(1.5年)

所在地 〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13

URL: <http://abk.or.jp>

電話: +81-3-3946-2171 FAX: +81-3946-7599

E-mail: [nhongollabk.or.jp](mailto:nhongollabk.or.jp)

